

作成日：2024年6月8日

学校法人神戸滋慶学園 神戸医療福祉専門学校三田校
2024年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：今在家 信司

1、開催日時：2024年6月8日（土）13:00～15:00

2、開催方法：ZOOM開催

3、参加者：学校関係者評価委員

田中 加代子	近隣関係者（特定非営利活動法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ地域活動支援センター トークゆうゆう 所長）
五味 仁志	高等学校関係者（学校法人松陰女子学院 入試・広報課）
正木 健一	業界関係者（一般社団法人理学療法士会 理事）
川端 雅生	業界関係者（一般社団法人日本義肢協会 近畿支部 研修委員）
中村 元樹	卒業生代表（医療法人社団尚仁会 平島病院 理学療法士）
幸田 佳子	保護者代表

学校側参加者

澤村 誠志	神戸医療福祉専門学校三田校 校長
今在家 信司	神戸医療福祉専門学校三田校 事務局長
渡部 匡朗	神戸医療福祉専門学校三田校 事務局次長
大牧 良平	神戸医療福祉専門学校三田校 理学療法士科 学科長
山下 真吾	神戸医療福祉専門学校三田校 作業療法士科 副学科長
今岡 康人	神戸医療福祉専門学校三田校 言語聴覚士科 学科長
榎木 千代美	神戸医療福祉専門学校三田校 救急救命士科 学科長
鎌田 恭子	神戸医療福祉専門学校三田校 義肢装具士科4年制 学科代表

4、会議の概要

- （1）校長挨拶
- （2）2023年度自己点検・自己評価結果報告
- （3）2024年度重点目標の説明
- （4）質疑応答および審議

5、2023年度自己点検・自己評価結果報告

2023年度本校が実施した自己点検・自己評価の内容を下記10項目について説明後、各委員からの質疑応答、そして評価を頂いた。

1. 教育理念・目的・養成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援

6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令遵守
10. 社会貢献・地域貢献

※自己評価・学校関係者評価の結果参照

【質疑応答】

正木委員) 私は、職務上理学療法士、作業療法士と関わることが多いのですが、スペシャリストである前にジェネラリストでなければ、多職種との連携、ご家族との連携はできないと思っています。コミュニケーションに関する授業、トレーニングを学校の教育に取り入れることでSOSや精神の不調を学生から言えるようになるのではないのでしょうか。コミュニケーションを高めていく取り組みはいかがでしょうか。

今在家) 確かに最近の学生はコミュニケーション力が低下していると感じていますが、面談で自分の気持ちが言えなければ意味がありません。ICTを教育の中にもっと活用し、悩みや個人的な問題をタイムリーに伝えられるような取り組みが必要だと思っています。臨床実習においてもICTを利用したレポートや生活指導、学習指導を実習指導者と3者でタイムリーに双方向で取り組むことが出来ればより適切な実習が出来るのではないかと考えております。

正木委員) 情報通信手段、DXと幅が広がるのは良いことです。私の娘が他校の理学療法士の学校で今実習に行っていますが、そのことで親子の会話が増えました。私が理学療法士ということでコミュニケーションの量が増えました。親子だから聞けるが、そうでなければ聞けないと思う。不安なことは聞くものだというのを早い段階から教える必要がある。これは学校の役割なのか、家庭の役割なのかと感じますが、最近ではできない学生も多いと実感しているので。

今在家) ありがとうございます。対面で会話ができればいいのですが、最近の学生は語彙数が少なく、言葉で表すことがなかなか難しく、自分を分かってもらえないという不安がいつもあるようです。

正木委員) リハビリは対人援助職なので、その点はとても大切なことだと思います。

今在家) 他人の意見を傾聴して、聞いて学べばよいと考えてはいるのですが。

正木委員) まずは聴き方、質問の仕方を身につけることが重要だと思います。

田中委員) 作業所で失語症の方がいますが、職員が話を聞き取ろうとしても最初はなかなか話が出てきませんでしたが、じっくりと向き合う場を作れば変わってきました。お互いに余裕がない時は横にいただけでも安心という時間があればと思います。言語聴覚士のインスタよく見えています。先輩と後輩と一緒に勉強しているのは聞きやすいし、いいなと思っています。コミュニケーションは難しい問題ですが、1つ1つクリアしていくと向上していく気がします。

今在家) 教員も効率を考えて、結果を重視しがちなので、ゆっくり時間をかけてという意識も必要ですね。

川端委員) 教員の人数は限られているし、業界の役割も兼任して忙しくされていて、今以上向き合うのは難しいのではと思います。私が非常勤講師をしていた時、自分の授業の時には、上の学年の人と同じ場所で昼食を食べるということをしていました。上と下の関係を作ることで、先生の負担も減る。学習能力の低下については勉強会をして、自分が理解していないと教えられないので、教える方も学習能力が上がる。放課後、時間を作って上と下のコミュニケーションの機会をつくると仲良くなり、卒業後のセミナーでも親しく会話をしている。これは、他校にはない三田校の特徴ではないのでしょうか。

今在家) 上下関係的な要素を取り入れる時には、学校という最近の制約の中で進めるのは難しいこともありますが、必要だということは十分認識しています。

渡部) 私も整形靴科の1期生ですが、当時は運動会、遠足のような授業もあり、全学年で参加して他の学科との交流が増えました。今年度スポーツ大会を今まで学科で2日程に分けて実施していたものを1日にして全学科で実施しました。他の学科と交流できたという面で好評でした。教員も予想外で学生自身はもっと交流したいと思っていることが実感しました。

今在家) 一方で参加は強制ですか？という学生の声もあります。業界でも同じような場面がありますか？

正木委員) 上からは言えない。下からも声は上がらないというのが現状ではないでしょうか。病院勤務の中村先生に聞きたいです。

中村委員) コロナの影響で歓送迎会もなくなりました。同時に強制参加というのはありません。

今在家) 昔の慣例的な社会的要素が希薄になっている世の中でそのまま導入するのではなく今風にアレンジしていかないといけないと考えています。

川端委員) 学生にとって講師の先生の方が言いやすいかもしれません。私の業界でも食事会はほとんどありません。三田校のつながりで、今度、京都の会社で40人程度で会をしたいと思っています。

今在家) 人の成長というのは、集団で学ぶ方がいいと思っていますので、手法的には強制的ではなく説明をしっかりと上でイベント等を実行することが大切だと考えます。

中村委員) 当院に4月から理学療法士科の卒業生が1名就職しました。患者さんと話したりするコミュニケーションは苦手ということなので、一人で悩まないように配慮しています。トライやるウィークで中学生を受け入れましたが、医療系に興味ある生徒は積極的でコミュニケーション能力が高いと感じました。オープンキャンパス等を通して興味を持ってもらうことが大切だと思います。

五味委員) お話を伺っていて専門学校と大学の違いについて考えました。素晴らしい教育を実践されていると感動しました。大学を選ぶ生徒との違いはどこにあるか。学歴社会という面が今でもあるのではと思うが、4年間で学ぶことが大学とどう違うのか、専門性を上げる、専門職で生きていくと考えた時専門学校を選ぶ。大学生が意識をしっかりと持って資格を活かしているか、しっかり考えて卒業している学生が果たして何%いるのか。そうでない学生が多いと感じています。人間教育は中学・高校・大学でも全く同じで同じ課題を抱えています。どの学校でもどう解決していくかほぼ同じです。どこかに差がでてきてそれが大きな課題なのかもしれない。明確な数字目標があるというのはいいことです。

今在家) 専門学校は出口が決まっているので目目標がはっきりしています。大学は4年間をかけて将来を決めていく、だめなら次を探せばいいと思える人が合うのかなと思うところがあり、出口が決まっていることが逆に良くないのかと思う所です。しかし、少子化のこれからの社会を考えると、社会人・医療人に求められるものはスペシャリストとゼネラリストとしての働きだと思います。そう考えると専門学校の即戦力として働く人材の輩出が社会から求められていると思えます

幸田委員) コロナが終わり、行事を全力で楽しむことができるようになりましたが、学校行事に参加したくない学生、関わりを持ちたくないという学生もいるようです。今週から病院実習に行くのですが、昨年同じ病院で実習した先輩から色々と教えてもらったそうです。実習前には不安な気持ちがあるので、本当にためになるお話だったということです。先生方にも聞きやすいですが、1、2つ上の先輩にちょっとしたことを聞く機会があれば、コミュニケーションもとりにやすくなるのかなと思います。先生に話せないことも先輩なら話しやすい、そのような機会があればよいと思いました。

渡部) 学生によって受け取り方が違うので今迄以上にしっかりと目的等説明する必要があると考えます。

今在家) 有難うございました。

次回は2025年2月を予定しております。